

「キリストにあって成熟した者」

コロサイ 1：26～29

堀田修一 25・5・25

I 「すなわち、世々の昔から多くの世代にわたって隠されてきて、今は神の聖徒たちに明らかにされた奥義を、余すところなく伝えるためです」：26。

1. 前節の余すことなく伝える「神のことば」の特質が明らかにされる。「奥義」＝今まで測り知りがたい神の思いのうちに秘められていましたが、時至って聖徒たちに啓示された神の救いのご計画を意味しています（ローマ16：25）。「この奥義が異邦人の間でどれほど栄光に富んだものであるかを、神は生徒たちに知らせたいと思われました。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです」：27。神の救いの計画が旧約の中心主題です。

2. その計画には、イスラエルだけではなく神が造られた異邦人、すべての国の人々も含まれていた（創12：3、詩18：49、117：1、イザ11：10、49：6）。しかし異邦人（イスラエル以外の国の人々）の参加が具体的にどのようにしてなされるかは、時至るまで秘められていました。今、パウロは、それが現実となったことを証言する。旧約聖書が預言していた救い主の誕生、主の十字架、復活、昇天、ペンテコステ（聖霊降臨）の恵みにより、イスラエル人、異邦人、人種の差別なく「主の名を呼ぶ者（主を信じる者）は、みな救われる」（使徒2：21）。ハレルヤ！「どのように栄光に富んだものであるか」＝この奥義、救い、キリストがどんなに素晴らしく豊かな性質、豊かな恵みか。「知らせたいと思われました」。三位一体の神は、大きな愛と犠牲をもってすべての国民の罪の贖い（御子の血という代価を支払い、人々を滅びから買い戻す）を完成されました。

3. 但し、人の側の応答（自分の罪を認め、その罪のために死なれた主を信じる）が必要です。この素晴らしい救い、福音（良き知らせ）が知らせられないなら、人は信じることはできない。それゆえに神は「知らせたい」と思われた。それをするのに用いられるのがパウロであり私たちである。「聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう」（ローマ10：14）。聖霊に拠り頼む私たちが主を知らせる者として用いられますように。「この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです」。この奥義の中心は、イスラエル人ばかりではなく、すべての民族のすべての主を信じる人々のうちにキリストが神秘的に内住するという恵みの現実そのもの（旧約時代、主は幕屋に住まわれた）。「栄光の望み」とは、今の時のキリストの内住が、終わりの日、主の再臨の時に信仰者が受ける栄光、神の国の相続の保証であるため。今、現実（に事実として主を信じている私たちの心（霊的な神殿とされている）に神である栄光のキリストが住んでおられることは驚くべき恵みである。

II 「私たちはこのキリストを宣べ伝え、あらゆる知恵をもって、すべての人を諭し、すべての

人を教えています。すべての人を、キリストにあって成熟した者として立たせるためです」：28。

1. 主を信じて洗礼を受けることが最終ゴールではなく、洗礼後、キリストにあって成熟した者へと成長し続け、御前に立たせていただくのが聖なる目標。そのために

①「キリストを宣べ伝える」。聖霊に励まされつつ主を宣べ伝え続けたい。

②「知恵を尽くして」。これは人間の知恵ではなく、神が与えてくださる知恵（ヤコブ1：5）。みことばと聖霊からいただく知恵。「上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であり、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです」（3：17）。

③「あらゆる人を諭し」。私たちはみな、間違っていたり、横道にそれていたりするので、主の姿に成長し続けるためには互いに戒めを必要としている。戒めを受け入れ悔改める謙遜と必要な時に愛を持って戒め、諭しを与えることの両方が必要。「あなたがた自身が善意にあふれ、すべての知恵に満たされ、また互いに訓戒し合うことができることを、この私は確信しています」（ローマ15：14）。

④「すべての人を教えています」。私たちは、みことばを教えられ続け、また求める人にみことばを教え、教えられたことを互いに分かち合うことによって成長する。「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住まわせ、知恵を尽くして互いに教え」（コロサイ3：16）。

2. 「キリストにあって成熟した者（原語：十分に成長した、大人、成人、完成した）」とは、キリストに似せられキリストの姿に成長した人。そのためには、

①毎朝、静まりキリストのことばを味わいキリストの臨在に触れる。家庭礼拝で分かち合い祈り合う。

②キリストのからだである教会に集まり礼拝のみことばで養われ、キリストの臨在に触れる。

③ふたり三人でも主の名において集まり互いに交わり、みことばの恵みを分かち合い祈り合う。その集まりの中におられるキリストに触れる（マタイ18：20）。

④人々に仕えつつ主を伝え自分も恵みを共に受けつつ成長する（Ⅰコリ9：23）。

⑤「人が主に立ち返るなら、いつでもその覆い（みことばの理解を鈍くする覆い）は取り除かれます。…私たちはみな、…鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主のはたらきによるのです」Ⅱコリント3：16－18

Ⅲ「このために、私もまた、自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています」：29。主を伝え主に仕える道には、実に多くの困難と試練がある。正に「労苦と奮闘」の道である。この道程において、自分の力だけなら、あまりに無力であり、失望してしまう。しかし、自分の弱さを認めているパウロは、自分のうちに力強く働く内住のキリストの御力をいただいていた。※私の人生も多くの労苦と主の偉大な支え。「労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともありました。…日々私に押しかかる諸教会への心づかいがあります。だれかが弱くて、私が弱くない、ということがあるのでしょうか。だれかがつまずいていて、私の心が激しく痛まないでおられませんか」Ⅱコリント11：27～29。「主は『わたしの恵みは、あなたに十分である。とい

うのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである。』と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう」12：9。主に仕える私たちにも、労苦、試練があります。皆さん一人一人にも。しかし、私たちの内に住み、力強く支えてくださる素晴らしいキリストが実際におられることを深く覚え感謝したい。主に、拠り頼み歩みましょう。主は、決して見捨てたりなさいません。弱さを認める私たちに主の恵みと力は十分に現れます！「今持っているもので満足しなさい。主ご自身が『わたしは決してあなたを見放さず、あなたを捨てない』。本日は主が私に命を下さった何年目かの誕生日です。人生を振り返り、神の恵みを思い巡らしました。神が与えられた生涯、神の御支配の中で、皆さんと同じく私にも多くの試練、労苦、弱さがありました。「もう駄目ではないか。なぜ、こんなことが起きるのか」と思う日々がありました。欠けがあり弱い私が、本日、ここに立って説教をし、約47年牧会を続けることが出来たのは、主による奇跡であり「私の内に力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘させていただいている」からです。弱さの中に働く主の力、恵みを心から感謝します。私も皆さんも、主の救い、力、恵みがなければ、とっくに倒れ、滅びています。私たちのうちに力強く働く力を心から主に感謝しましょう！祈り。応答の賛美。